

■結婚感謝の集い

日 時：2003年11月2日(日) 15:00～
場 所：聖イグナチオ教会 主聖堂
懇 親 会：16:00～ ヨセフホール

■七五三祝福式

日 時：2003年11月16日(日) 15:00～
場 所：聖イグナチオ教会 主聖堂

ご意見・ご感想は one@ignatius.gr.jp



結婚セミナー20周年を記念して

感謝!

理想的なセールスマンは自分が何を売りたいかではなくて、お客が何を買いたいか、という基準に基づいて働いています。同じ基準によって結婚セミナーが始まりました。すなわち、教会が何をしたいかではなく教会に来る人々が何を望んでいるかを考えるところから出発しました。

21年前のことですが、たくさんの信者でない若者が教会の門を叩いて「ここで私たちの生涯のもっとも重大な誓いを交わしたい」と頼んできました。当時、教会の決まりによって「土、日、祭日以外だったらよろしい」と答えたから申し込みに来た皆はがっかりして諦めました。

私たちは痛みを感じて何人かの信徒のカップルに集まってもらい相談を重ねました。

- なぜ、この日に洗礼を受けていない方たちの結婚式ができないのでしょうか?
- 教会の目的は良い家庭が生まれるように手伝うことではないのでしょうか?
- 結婚を考えている若者たちに結婚について深く考えさせ、絶対者である神様の前で誓いを交わす心を持たせるためにはどのような準備が必要でしょうか?
- そのためには何回ぐらい集まる必要があるでしょうか?
- また、数十年の結婚生活を体験して立派な家庭を持っている人たちは、ヘルパーとして彼らに良い助言を与えることができないでしょうか? などなど。

ゆるぎない結婚の意思を固めるために20回、すなわち、5ヶ月の間セミナーに参加すれば土、日、祭日に、教会で結婚することができることになりました。私たちが驚いたことに、宣伝もしないのに若者たちが次々に申し込みに来て喜んでセミナーに参加し、心のこもった挙式をして、どんどん立派な家庭が生まれました。

この結婚セミナーの本当の親であるヘルパーたちに感謝、感謝。(写真上段)

ルイス・カンガス

セミナー20年をふりかえって

20年前、私たちの指導司祭であるデ・スーザ神父様からヘルパーにと誘われたのが、私たちとセミナーとの出会いでした。その頃、結婚して25年も過ぎ、子供たちも皆結婚していた私たちは、神の愛に支えられて、夫婦の愛に生きることの大切さを深く心に感じていました。婚約者がセミナーで結婚への準備が十分できることは、私たちにもできなかったことでもあり、とても必要なことと心から賛成しました。ですから、そのお手伝いをさせていただくことは、素晴らしい信徒使徒職であり、そのうえ、夫婦揃ってできるボランティア活動でもあり、喜んでお引き受けしました。

この20年を顧みますと、セミナーで私たちが多少お手伝いできたことよりも、多くの指導司祭、若いカップルにどれだけ強く支えられ、育てられたか、その恵みの深さに感謝しています。未熟な私たちの生き様を通して、神の計り知れない愛が、若いカップルに伝わっていくことを願いながら、つたない分かち合いを続けています。(写真中段)

山形 昭・伸子

私たちの宝物

結婚セミナーを受けて結婚してからの10年間、夫婦共に大切にしている「宝物」があります。セミナー時にとった10数頁の小さなメモです。「家庭の第一の役割は命を支えること…」とメモはこう始まります。

この言葉が深く重く心に響く出来事の続いた10年間でした。待望の我が子の夭折と第二子の死産、そして主人が交通事故で重傷を負うという事件もありました。その時々生きていくためのヒントや結婚生活を続けていくための知恵を与えてくれたのが、このメモでした。二人でとことん話をし、ぶつかり合い傷つけ合いながらも、お互いの気持ちを確認することで夫婦関係を築いてこられたのだと思っています。

実は、セミナーで得たメモよりももっと大切な宝物があります。神父様、ヘルパーの両ご夫妻、そして共に語り合った仲間の皆さんとの「出会い」です。転勤で岡山に越してからも、苦しい時に心の支えになってくださったのはこうして出会った皆さんで、本当に感謝しています。

最近、別の意味で「命を支えること」の難しさに直面しています。一昨年末に娘の瑛が生まれ、育児生活が始まったためです。育児中心で夫婦でろくに話しもできず、夫婦関係は最大のピンチ?! 「宝物」に叱咤激励される毎日です。今後も「宝物」を大切にしていけるとともに引き続き多くのカップルがセミナーで宝物を見つげられることを願ってやみません。(写真下段)

横森康伸・彩子



第7回「結婚感謝の集い」へのお誘い

聖イグナチオ教会で夫婦として「生涯、愛と忠実を尽くす」ことを誓った皆様、いかがお過ごしですか。今年は、結婚セミナー20周年を迎え、結婚セミナーの生みの親であるカンガス神父様、多くの神父様、ヘルパーは思い出の教会で皆様にお会いすることを楽しみにしています。「結婚感謝の集い」では、聖書朗読、神父様のお話、祝福、誓いの言葉、聖歌などがあり、皆様は自分たちの結婚式を思い出すことでしょう。七五三のお祝いを迎えるお子様方は祝福を受けられます。主聖堂での「結婚感謝の集い」の終了後、懇親会(無料)があります。どうぞご家族お揃いでお出かけください。

日 時：2003年11月2日(日) 午後3時から 場 所：聖イグナチオ教会 主聖堂

便利さと家庭

家庭の中で便利なもの（こと）を上手に使うことで絆を深めることができたり…。便利さをしいて放棄することで得られるものがあったり…。家庭における「便利さ」について考える手がかりをご紹介します。

自 転車通勤のススメ

朝8時自宅を出発。イチョウ・ケヤキ並木の美しい国道20号線を西に走り、現代建築技術が結集した新宿副都心街、聖イグナチオ教会、皇居を過ぎると職場である。片道18kmの通勤ルートは電車通勤よりも5分短縮で8時50分に到着。Tシャツとトレパンをトイレで着替え、デスクで水分補給。退屈な満員電車通勤から解放され、酸素いっぱいのフレッシュな頭脳で仕事をスタートできることが、自転車通勤最大のメリットである。メリットをあげればきりはないが、例えば「自転車漕ぎ」有酸素運動を毎日継続的にできること、妻からのケータイメール買物指令に柔軟に対応できること、通勤費は家計に大貢献できること、仕事や会合の際の終電の心配は不要となること、ランチタイムに買物や食事に遠征できること、車の裏道開拓ができることなど。もちろん、予想外のパンクや大雨により途中からタクシーや電車にお世話になったことも数回ある。着替えの服を忘れ、職場から引き返し有休に変更したことも一度だけ…。

我国は1.5人につき自転車1台を保有し（2001年）、地球温暖化対策推進大綱（2002年）には「車に代わる自転車の利用促進」が謳われ、自転車大国とも言える。一方で、「自転車はどこを走ればよいのか」の問いに、即答できるだろうか。道路交通法では、自転車は車道を通行、一部、歩道通行可となっており、正解は「車道」である。自転車通行可の歩道でも歩行者優先で、かつ徐行である。自転車利用環境は諸外国と比較してかなり遅れている。米国では「車の運転者に道路を共用させる」、英国では「自転車は経済的、健康的、エネルギー的に効率的の良い交通手段である」など政策が明確で、自転車利用環境整備が進んでいる。

日本の現状は自転車に市民権が与えられているとは言えないが、周囲の友人・知人に自転車通勤をススメ、徐々にではあるが自転車の輪は広がりつつある。

(SJ)



便 利だからやめられない

「出かける準備ができれば連絡ちょうだいね」「うん、わかった。あとでねえ〜」…「もしもし、今どこ？あ〜見えた見えた」と電話をかけながら手を振る。こんな経験ありませんか？最近、友人との待ち合わせはこんな具合だ。ケータイを持つようになって事前に時間や場所を決めることがほとんどなくなってしまった。常に何かに縛りつけられているような気がして、ケータイをもつことを最後まで躊躇していた私も今や手放せないものの一つになっている。しかしケータイといっても、実際は電話をかけることよりもメールを使うことの方が多い。

私と彼は出会ったちょうど一年後に結婚した。「短期間でよく（結婚を）決めたね」と周りからは言われるけれど、週に一度しか会えない私たちは、お互いを知るためにケータイメールを頻繁に利用した。今となっては気恥ずかしい話だが、モーニングコールならぬ「モーニングメール」に始まり「おやすみメール」まで一日何通メール交換しただろうか。他愛もない内容だが、面と向かって言い難いことや電話では伝えにくいこともメールではなぜか言える、私にとっては自分の気持ちをストレートに伝えようといつもより素直になれる瞬間でもあった。しかし、あるきっかけを境にメールに対して慎重になった。手軽さ故に起きた出来事である。ある日、「私は二度とメールをやりませんので今後一切送ってこないでください」と友人からそっけないメールが届いた。訳を聞けば（電話で）、メールが原因で友人関係にヒビが入りメールが嫌になったという。お互いの感情のすれ違いだった。

対話は相手の目や表情を見て話すことができる。電



話は相手の声を聞くことができる。メールは文面でしか相手（感情や心情）を受け止めることしかできない。しかもケータイメールはリアルタイムなので、相手の置かれている状況を察することもできない。もしかしたら迷惑な場合もあるかもしれない。夫婦に限らず、いくらお互い分かり合った間柄であっても、書いた人間と読む人間とでは文章のとらえ方が異なることは大いにあり得る。それによってすれ違いや誤解が生ずるのか…いろいろ考えさせられてしまった。

それ以来、「顔文字」や「記号」、ケータイ独特の「絵文字」を駆使して相手に誤解を招かないように感情表現をしたり、一言で済むことを回りくどく書いてみたり、慎重になるせいか私のメールは人より長い。送る前には必ず読み返す。そして…その友人との交流はメールから「手紙」に変わった。

慎重さを保ちつつ、彼とのメール交換は今も続いている。お互い「今から帰るメール」か「〇〇買ってきて」の「お願いメール」が大半。それから…すぐに言えばいいのに必ずメールを利用する言葉、喧嘩の後の「ゴメンね」。やっぱり便利なケータイメールはやめられません。

(Yori)

メールコミュニケーション

「つながり感」^(注)というコンセプトが提唱されています。現代は、この「つながり感」を目的にしたコミュニケーション領域が拡大していると言われています。ケータイメールはその代表選手と言えます。この相手の顔を見ない、声を聞かないで行えるコミュニケーションについて、Matbeson&Zanna (1988) は、対面コミュニケーションとコンピュータコミュニケーションの比較実験を行い、コンピュータを使って会話をすると、他人に見られているという意識は薄れ、逆に、自分自身の感情に素直になりやすいということを明らかにしました。つまり、ケータイメールでは、本来の自分の性格・感情に正直になれるということになります。

夫婦のコミュニケーションツールとして、ケータイメールを活用してはいかがですか。

(SJ)

(注) 嬉しい、楽しい、といった一時的、直接的な感情に加えて、相手への身近さや親しみ、仲間意識のような感情を含む総合的心情



What's in a Name?! ~どう呼ばれても?!~

いつ頃からだろうか。彼が私の名前を呼ばなくなった。ある日『二人の関係が良いと感じている夫婦の半数以上がパートナーを名前で呼び合っている』という新聞記事の話をした時も「ふーん」と言うだけ。どうして名前で呼んでくれないの? 「照れくさい、面倒くさい」と彼はそう言った。たった2文字なのに? 「おい!」って呼ぶのと変わらないのに…。そう思いながら「おまえ」なんて呼ばれたら返事をしないというささやかな抵抗を続けている。

実家では、両親を含め家族を名前で呼び合っている。このことで周囲から指摘されたことも数知れず…。「生意気」と思われることもあるのかもしれない。今から「お父さん、お母さん」と呼ぶのはきっと簡単なことだと思う。それはニックネームを変える程度のこと。でも私は、名前を呼ぶことでひとりの人間として関わっていると思える、なかなか面白いこの関係をやめるつもりはない。

本当はパートナーに何て呼ばれても、自分の大切な人がそばに居てくれるのならそれだけで十分なのかもしれない。彼が私のことをいつまでも恋人であり、妻であるという意識を持ち続けてくれているのなら、本当はそれだけで幸せなこと。でも、人間、目に見えないものは、不確なものやっぱりどこかで確認したい。呼ばれる言葉でパートナーが自分をどう思っているか感じている。これから先、子供に恵まれて、子供が「ママ」と呼ぶように彼にも「ママ」と呼ばれたら、ちょっとショックだと思う。確かに彼が私を「ママ」と呼ばば彼の妻であり、子供の母親であり、私達が家族であるということが周囲の人にはその一言でわかってもらえる。でも、私は彼のお母さんではないし、彼の恋人であった、妻である私はどこへ行ってしまったのだろうかときっと思う。

昨日、彼が私の名前を呼んでくれた。なぜかいつもより楽しくて、ちょっと優しい気持ちになれた。名前を呼ぶなんてすごく簡単なこと。たったそれだけのエッセンスで楽しい気分がプラスされるのなら、私からもっと呼びかけてみよう。この想いが彼に届きますように…。

(Fujiko)



僕の活躍

名前 かん そうき

僕の家には、結婚6年目の夫婦が住んでいる。3年間は共働き、その後彼女は専業主婦としてがんばっている。「明子も仕事をしているのだから、上手に家事を手抜きしたほうがいいよ」彼の優しい一声…。僕は毎日のように働いた。それがとても嬉しかった。

「今日は天気がいいわね。太陽のにおいのするシャツはやっぱり気持ちいいのよね」主婦になった彼女は、朝から楽しそうに洗濯物を干していた。その日、彼はたくさんの洗濯物を持って、仕事から帰ってきた。「明日また、これを着たいのだけれど」「乾燥機があるから大丈夫よ」彼女は笑っていた。僕はそれがとても嬉しかった。

結婚してから6年、彼らの生活形態は変わった。それでも僕を上手に働かせてくれている。僕はこの夫婦に必要とされていると感じる。何よりそれが嬉しかった。

ここ十数年、僕たち電化製品（友達を挙げれば、食洗機・パソコン・デジカメなど）は大変進化した。「便利になった」とも「便利になりすぎた」とも言われる。電化製品を上手に使いこなしてくれるのは、人間たちである。僕たちの幸せは、その家庭の笑顔が見られることにある。

(Nao)



進化論をどのように考えたらよいのでしょうか？

Q

「…神は土の塵で人を形づくりその鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きるものとなった。」

この人間創造の話で二つ質問があります。教会は進化論を全く否定しているのですか？この話をどのように考えたらよいのでしょうか？

A



栗本昭夫

A：確かにカトリック教会はこれまで、「神がアダムをつくった」という創世記の記述を根拠に、1859年にダーウィンが体系づけた進化論に対して明確な判断を避けてきました。しかし、1996年10月23日、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は、教皇庁科学アカデミーに宛てた書簡の中で、「…新たな知識が我々をして進化論を単なる仮説以上のものとして認めさせるようになった。しかし、魂は神によって授けられている」と述べています。

以上のことをふまえた上で次のように考えてみたいと思います。私達の身体は、生物学的な細胞の集まりとしてたどっていけば、親、そのまた親、そのまた親というふうには、理論的には最初の人間までたどれるでしょう。その意味では、代々つながってきて途切れてはいないといえます。そ

の過程で、生物学的に身体の機能や、形態など変わってきたことでしょう。これを進化と呼んでも良いでしょう。

しかし細胞的に人は代々つながっていても、一人ひとりの人格=魂は決してつながっていません。自と他は、たとえ親、兄弟といえども、全く別の人格であり、別の魂の持ち主であることは誰でもわかります。そしてこの人格こそが神から来るのだと私達は考えます。「神の似姿」また、「神が息を吹き込まれた」ということはその意味です。こう考えると、人格、或いは魂は身体と同じように祖先からつながって進化してきたとはいえません。

この二点を考え合わせると、肉体は進化ともいえる連続性によって親を通して与えられ、その肉体に神が平等に「命の息」（創世記、2：7）、即ち、人格=魂、を吹き込まれ、個としての人間をその都度創造されるともいえます。言い換えれば、人間は、人種、宗教のいかに問わず「人の子」として親とつながり、ひとしく神の息吹を受けた「神の子」として神と直接につながっているのです。つけ加えるならば、親が子を自分の子として認知し命名するように、神が私たちを神の子として認知することをキリスト教では洗礼と言います。

憧れに一緒に向かうside by side

ハビエル・ガラルダ、s.j

この前の『One 14号』に、「恋愛はface to face、結婚はside by side」とあります。「好きである」とは、お互い見つめ合って互いに憧れるというフェイス・トゥ・フェイスの状態です。相手のピンと来る魅力に引き寄せられる気持ちです。この感情は次第に、何かを一緒に見詰めて、何かに憧れて一緒に進むというサイド・バイ・サイドの姿勢に、自ずと変わるわけです。

ところが、フェイス・トゥ・フェイスで好きであるという状態は極めて大事なのに、時間の経過で弱くなることが多い。確かに、愛情の感じ方と表現は、年齢や慣れによって自然に変わるはずですが。恋愛のごとく山の元気な川は、落ち着いて谷を流れる深川になります。しかし、山の川という愛情は、馴れ合いのせいで涸れる時もあります。愛の発展を求めない夫婦は、同じ習慣を繰り返しているうちに、いつの間にか馴れ合い状態に陥った事実が目覚めることが多い。だから発展は必要です。ところが、フェイス・トゥ・フェイスの発展は難しい。相手を見つめるほどますます好きになるとは限らないのです。だから、夫婦が、サイド・バイ・サイドで憧れに向かって一緒に進めば、その向上によってお互いにますます好きになるのでしょうか。

憧れは別々でもいいのですが、結婚セミナーで二人が感じた本当の信仰は、共通の憧れの的になり得るのではないのでしょうか。皆さんが結婚なさった教会の本当の信仰はキリスト自身なので、「S」で始まるローマ字の次の「3S」

司祭からの メッセージ

は、憧れになる本当の信仰です。①キリストを「Shiru (知る)」。イグナチオに聖書研究会や黙想会が多いし、いい本もあります。②イエスを「Sukininaru (好きになる)」。人間は、イエスを知るほど、イエスの魅力を深く感じるのです。③キリストに「Shitagau (従う)」。自分がイエスの価値観と生き方に従って歩めば、周りの人も純粋に喜びます。この「3S」に憧れて、サイド・バイ・サイドで進んだ夫婦は、フェイス・トゥ・フェイスでも、より仲良くなるのではないのでしょうか。



Book



ハビエル・ガラルダ著
ISBN4-569-63166-5
PHP研究所
1,365円 (税込)

新刊：「いい人」がきっと幸せになれる7つの法則

「いい人」と聞いて、あなたはどのような人を思い浮かべますか？ 私にとっては、「いい人、いい人、どうでもいい人」とか「あの人はいい人なんだけどね…」と多少蔑んだり見下したようなイメージの方が強いです。本当はみな「いい人」なのに、本当はみな「いい人」になりたいのに、そんな風に思われては誰も魅力を感じなくなります。

ここで、「良い意味でのいい人」について考えてみませんか？ 本書では、普通の人間は既に「本当の意味でいい人」だと言っています。そして簡単なことではないけれど、今よりもずっと「いい人」になって、もっと幸せになっていいのだと応援してくれます。家族、友情、喧嘩、好きという気持ち、さまざまな感情等、日常にあるいろいろなことを標識にして私たちが迷わないように更なる「いい人」へと自然に導いてくれるのです。中には難しくてすぐには理解できない標識もあるけれど、そんな時は読み返し考えてみてください。そんなちょっとした寄り道も必要だから…。

完全なる「本当にいい人」になれるのは神様以外にいないかもしれない。でも、あなたはきっと何か見つけることができるでしょう。あなたの理想の「いい人」になるうとしている心があなたの中にあることを…。

(Yori & Fujiko)



今年も結婚感謝ミサ行われる

5月11日の午後、爽やかな緑の風を受けながら結婚クラス卒業生の皆様が主聖堂に集まり、結婚感謝ミサが行われました。ガラルダ神父様はこの日の説教の中で、「夫婦はどんなに忙しくても毎日10～15分間二人きりで話をするように、そしてお互いに相手の発信をしっかり受け止め、信頼の絆を深めて欲しい」、「対立した場合には、(ゲーテの言葉を引用し)相手が何を言ったかではなく、何を言いたかったのかに気づくように」とお話していただきました。ミサの後、参加者たちは懇親会で仲間や神父様、リーダーを囲みながら和やかな交流のひと時をもちました。

☆

「結婚感謝ミサって何?」というお声にお答えしますと、イグナチオ教会で行っている結婚準備講座にはいろいろありますが、カトリック信者を含むカップルのためには、結婚クラスが設けられています。結婚クラスの卒業生の皆様は、一年に一度結婚式を挙げたイグナチオ教会に集って結婚感謝ミサに与ります。このミサ中、二人で歩んできた結婚生活を仲間と共に神様に感謝し、夫婦の誓約を互いに更新し合い、それぞれの家庭の上に神様の豊かな祝福やご加護を願い、祈りのうちに信仰、希望、愛の心で結婚生活を再出発する決心をするのです。結婚セミナー修了者の皆様も、是非参加なさってみてはいかがでしょうか。

(結婚クラス担当 岩垂・野本)

同窓会情報

ボネットさんのイエズス会入会50周年のお祝い

〔日時〕平成15年10月11日(土)
〔会場〕13時～14時:ミサ、聖イグナチオ教会マリア聖堂
14時～16時:パーティー、ヨセフホール
〔会費〕お一人様1,000円(軽食・飲み物代)
〔お祝い金〕一口1,000円～
〔対象〕ボネット神父結婚セミナー修了者の方々

ガラルダ神父様結婚セミナー同窓会

ガラガラ会
〔日時〕平成15年10月25日(土)18時
〔会場〕未定(9月末現在)
Javi会
〔日時〕平成15年10月26日(日)17時
〔会場〕聖イグナチオ教会
Noventa会('90年会)
〔日時〕平成16年3月20日(土)13時
〔会場〕聖イグナチオ教会

ネブレダ神父様喜寿お祝い・合同同窓会

〔日時〕平成15年10月13日(月・祝)12:00～16:00
(神父様は途中休憩を取られつつのご参加)
〔会場〕上智大学・カトリックセンター(地下1階)
〔対象〕ネブレダクラス修了生の皆様
〔会費〕1,500円/家族程度(飲み物・軽食を用意、持ち寄り大歓迎。お子さん・赤ちゃん大歓迎。)
〔ネブレダ神父様から〕お互いが“Number One Neighbor”となったはずの皆さん、「幸せになる義務」を果たして、幸せになっていますか? 幸せな顔を是非見せに来てください。もし幸せでなかったら、幸せになりいらしてください。



リバス神父様結婚セミナー同窓会

〔日時〕平成15年11月30日(日)14時～16時
〔会場〕上智大学・カトリックセンター
〔連絡先〕リバス神父 FAX:03-3238-5056
〔対象〕夫婦(主に、リバス神父様の結婚セミナー修了者)
〔リバス神父様から〕期待をしないで、相手をありのまま受け入れる。

one 編集部では、一方通行のコミュニケーションにならないように心がけ、読者の声を特集の企画や誌面作りに活かしています。今後もアンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。スタッフ一同、楽しみにしております。

— 編集後記 —

スタートからoneにかかわってくださった編集員の方々が休みに入り一抹の不安を覚えながらも、新しい編集員を迎えられたことは私たちにとって大きな喜びです。それぞれのメンバーの個性が発揮され、時にはぶつかりあいながらoneはできあがりました。

one15号は、結婚セミナー20周年を記念し、編集会議にヘルパーの方々のご希望もあり編集メンバーとして加わっていただき、懐かしい神父様やヘルパー、卒業生からの言葉を集めた思い出の文集的なものになりました。一人でも多くの方がoneを通じて「結婚感謝の集い」にいらしてください。とても嬉しいです。

oneはイグナチオ教会で式を挙げられた方々のための通信です。one15号、「結婚感謝の集い」の感想を是非お寄せください。また編集員としてのかかわりを心よりお待ちしております。

(Nao)

編集参加者 (50音順)

新井直子
内田京子
太田守彦
大前順子
岡戸麻理子
神谷智子
鈴木肇子
武田伸子
福玉健太郎
森山順子
森本亜希子
若脇友紀子
林佳代子

発行:2003年10月発行
聖イグナチオ教会one編集部
責任者:森本亜希子・玉木健太郎
編集長:玉木健太郎
〒102-0083
東京都千代田区麹町6-5
Tel:03-3263-4584
Fax:03-3263-4585
http://www.ignatius.gr.jp
one@ignatius.gr.jp

印刷:三鈴印刷株式会社
東京都千代田区神田神保町2-32-1